

世界経済・金融市場動向(日本)

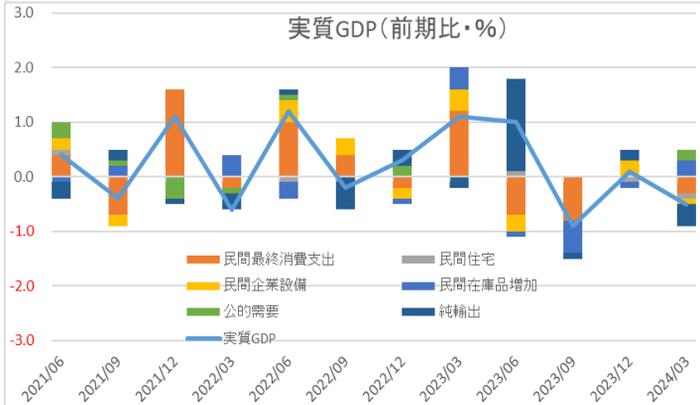
先月の振り返り

01 日本株式市場

5月の日経平均株価は上昇しました。上旬は日銀による為替介入で為替相場の変動が高まったことに加え、国内長期金利上昇や企業決算で発表されたガイダンスが弱めだったことなどから下落しました。中旬以降は米国CPIの鈍化を受けてリスクテイクムードとなり、長期金利が上昇する中、銀行株などは買われましたが、上値の重い相場となりました。

02 日本債券市場

5月の日本長期金利は上昇(価格は下落)しました。為替市場において円安が進行する中、日本銀行の金融政策スタンスが早期に引き締めめになるリスクが意識されたことで、金利が上昇しました。とくに超長期の年限が売られ、カーブはスティーブ化しました。長期金利は節目となる1%を、2012年以降初めて超える水準まで上昇となりました。

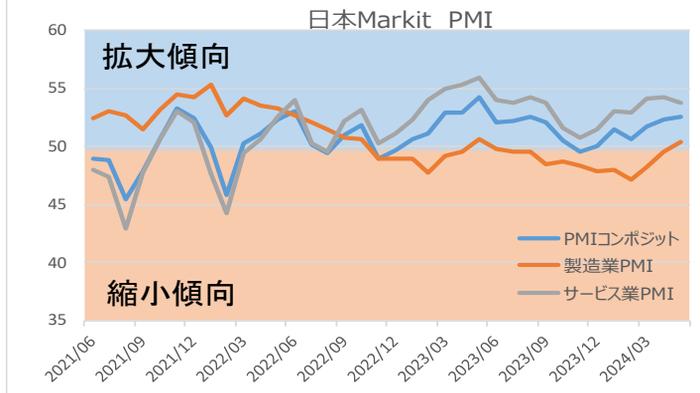


経済金融環境

01 日本経済環境

1-3月期の実質GDPは、物価上昇による個人消費の低迷や設備投資の減少に加え、自動車メーカーの認証不正による大幅減産の影響で、輸出が一時的に減少したことで前期比-0.5%となりました。

5月の製造業PMIは3カ月連続の上昇となり、分水嶺の50を1年ぶりに上回り、業況の回復が示唆されました。サービス業PMIについては前月から低下したものの、引き続き50を上回る水準で推移しています。



(注) データ期間：2021/6/1～2024/5/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

今後の見通し

01 日本株式市場

好調な企業業績に加え、設備投資の回復や定額減税による個人消費の増加などが株価の支えになると考えます。また、企業による自社株買いや新NISAの資金流入などによる良好な株式需給も株価の追い風になるとみています。

一方で、国内長期金利上昇による金利負担増加への懸念が強まりつつあり、日銀の金融政策や金利動向には引き続き注視する必要があると考えております。

02 日本債券市場

賃金と物価の好循環を慎重に確認する日本銀行の姿勢は維持されるものの、市場では政策金利の早期引き上げが意識されるため、徐々に金利のレンジが切りあがるのが想定されます。一方で、海外では物価の落ち着きから利下げに転じる中央銀行も徐々に増えてきていることから、内外金利差から円高が進行し国内の財価格の落ち着きが意識された場合は、長期金利の上昇も落ち着きがみられると考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

5月のS&P500指数は上昇しました。大型ハイテク企業の堅調な業績見通しを支援に、株価は底堅く推移しました。消費者物価指数の下振れにより、利下げ観測が高まった局面では、上げ幅を拡大させました。月後半は、FRBメンバーのタカ派発言により、債券金利が一時上昇したことで横ばい推移となりました。

02 米国債券市場

5月の米国長期金利は低下(価格は上昇)しました。雇用統計や消費者物価指数の下振れを受け、FRBによる年内の複数利下げが意識されました。海外の中央銀行の一部で政策金利の利下げもサポート材料となりました。一方で、引き続き金利が高止まりする中でも内需は堅調であり、政策金利引き下げの到達点は不透明であることから、金利低下後は横ばい圏での推移となりました。

経済金融環境

01 米国経済環境

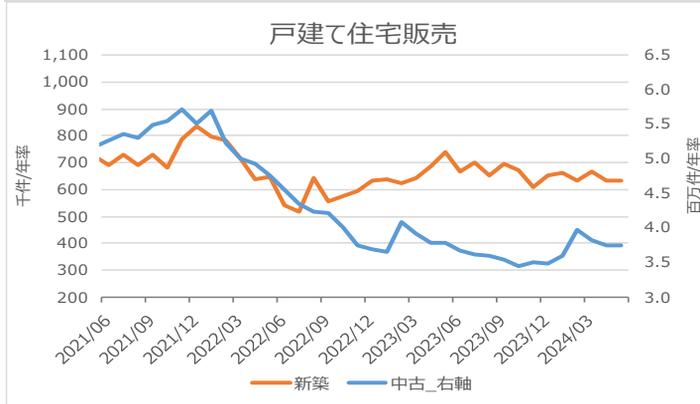
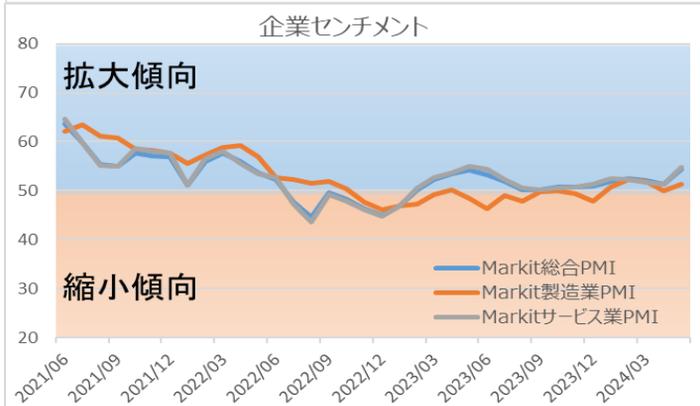
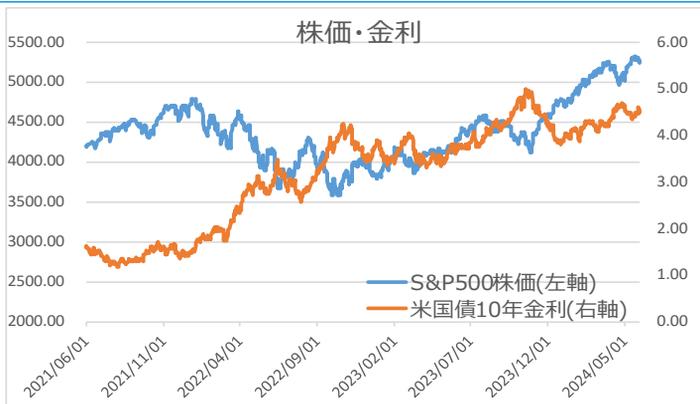
5月の総合PMIは約2年ぶりの高水準となりました。サービス業PMIが高い伸び率となったほか、製造業PMIも前月から上昇し、景況感の改善が示唆されました。

住宅販売件数については、新築一戸建ては横ばいで推移しています。また、中古住宅は底を打った状況にはあるものの、その回復は緩やかです。

今後の見通し

01 米国株式市場

大手ハイテク企業の堅調な企業業績は引き続き株価を下支えし、堅調な株価推移を想定します。一方で、インフレ再燃により利下げ開始時期が先送りされ、長期金利が高止まりする場合、債券対比でみた利回りが見劣りすることで、バリュエーション調整により株価は下落すると考えます。



(注) データ期間：2021/6/1～2024/5/31

(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

海外中央銀行の金融政策スタンスが利下げとなる中、FRBの利下げ開始時期に注目が集まっています。

米国の雇用指標の軟化により、賃金インフレに対する警戒感はやや和らぐ一方で、底堅い経済環境は継続しており、金利の低下余地は限定的と考えます。